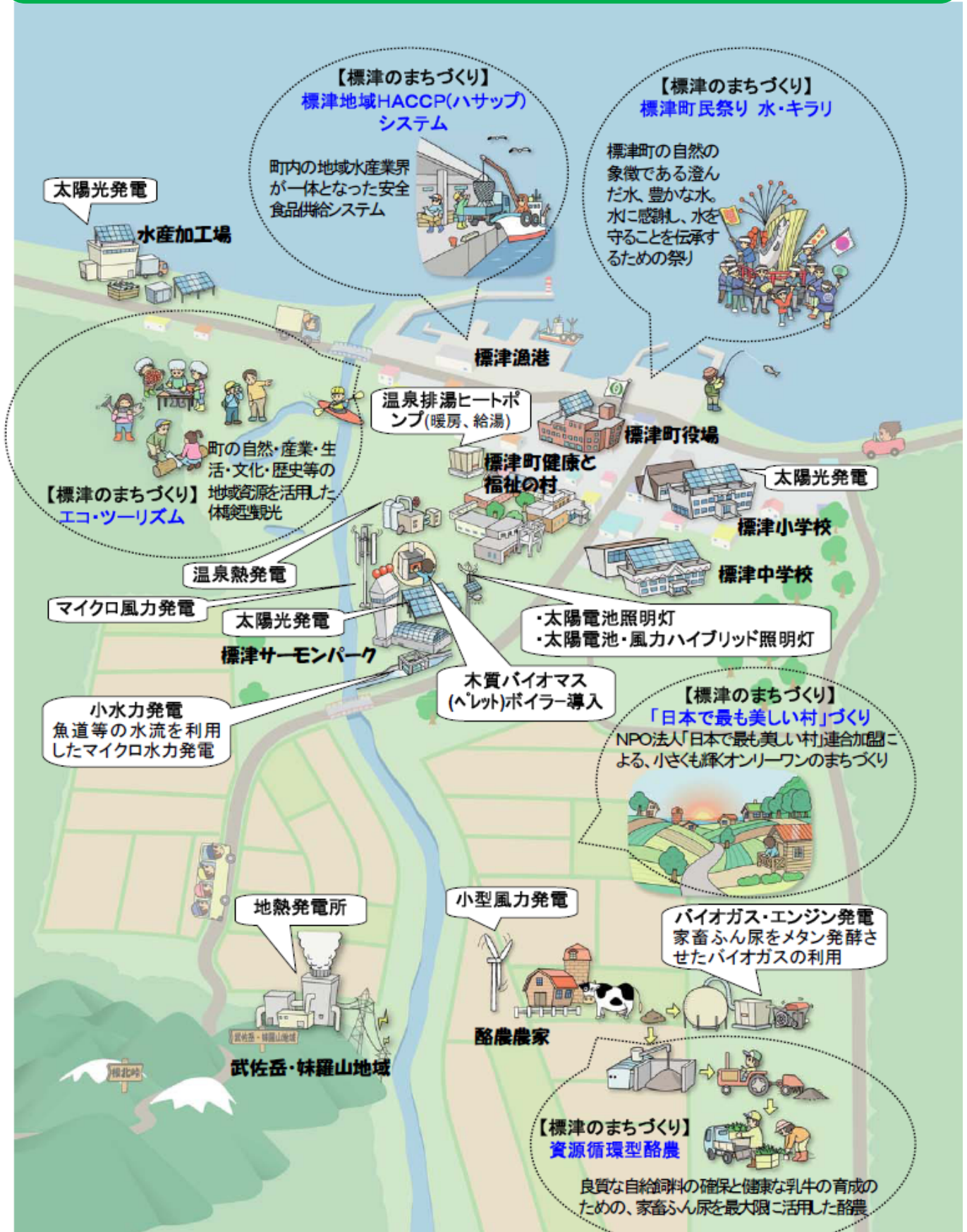


## 「標津町ネイチャーグリッド構想」による環境まちづくりのイメージ



## ②新エネルギー対策

### (1)現状と課題

エネルギーの大量消費による石油・石炭など化石燃料資源の枯渇が心配されると同時に、エネルギー消費の増加とともに二酸化炭素など温室効果ガスが増え続けたことで引き起こされる地球温暖化は、世界的に最も重要な課題である。地球温暖化防止のためには、新エネルギーや省エネルギーの取り組みが不可欠となっている。

このような状況を踏まえ、当町では平成 19 年度から 3 カ年にわたり標津町地域新エネルギービジョンの策定をしてきた。

結果として、当町の基幹産業である水産業と酪農業のほか、地域ハサップやエコ・ツーリズムの取り組み、日本で最も美しい村連合への加盟、標津町民祭り水・キラリなど、豊かな自然・資源を活かした環境と密接に関連したまちづくりを進めていることから、環境価値を高めるための取組みとして、標津町版マイクログリッドである、標津の水・空気・森・海を守り、この地域・産業・人を育む「標津町ネイチャーグリッド構想」～再生可能エネルギーによるエネルギーの地産地消化～を全体方針として位置づけることとした。

ネイチャーグリッド構想の先導的プロジェクトとして、標津サーモンパーク及びその周辺の「新エネルギー／省エネルギー・パーク化」による再生可能エネルギーを適正に組み合わせた電力供給を目指す。

また、平成 5 年度から平成 18 年度まで進めてきた妹羅山地域の地熱開発促進調査を行ってきた成果として、武佐岳の妹羅山周辺地域には「地熱」という「地域資源」が十分に存在することが確認されたことから、平成 22 年度から「武佐岳地域地熱開発促進調査」が実施される。

今後、諸条件が整ったときには、エネルギー需要が増加する冬期間も対応できる産業起こし等積極的な資源活用を目指していく。

～住民の声～

- ・エネルギー(バイオガス、太陽光)への助成を。

### (2)その対策

- 新エネルギーの普及啓発
- 標津町ネイチャーグリッド構想の推進
- 武佐岳妹羅山周辺地域の地熱開発促進
- 新エネルギーを活用した通年展開の事業の掘り起こしを検討する。

### (3)行動計画

- ①地熱開発促進事業の推進

標津町ふるさと新生プラン『ステップⅡ』より(平成 23 年)抜粋